

# まさに戦後史！ 北宸IV「はるけき流れ」

12期 あらい 新井 みのる 實

北宸IV「はるけき流れ」が届いた。

1期から67期までの卒業生多数がそれぞれの在学中の思い出や卒業後の人生を語っている。一読、懐かしさがこみ上げるとともに尊敬の念を禁じ得なかった。

そして、まず感じたのは語られる皆さんの体験の背景にある色々な事件であり、まさに戦後史そのものだということだった。例えば私達の時代は戦後の混乱期であり、定時制へ通うのは家庭的に、あるいは経済的に全日制を諦めなければならぬ生徒が多数であった。しかし、近年では高年齢で入学した人たちがいることを知った。そこには向学心という共通のものがあるが時代の変化を感じざるを得ない。このほか

様々な事件が体験的に語られるが、それらを自分の記憶と重ね合わせていくと、冒頭のような感慨を覚える。

次に特筆すべきは社会で尊敬される地位に達した人の多さである。それぞれの努力の賜物であることは言うまでもないが、その基礎は北野高校定時制にあったと言えるでしょう。

それに反し、作家、芸術家、舞台人などが見当たらないことである。寄稿していない卒業生が多数あることだから、それらの分野で活躍されている人もあるだろうが、そういう人たちがこの文集で見当たらないのも母校の持つ雰囲気の所為かとも思う。

この文集で感じることはこのほかにもたくさんあるが、特に感じたことを書いてみた。

これだけのものを完成させるには大変なご苦労があったことは想像に難くない。編集に当たられた皆さんに敬意を表したい。

最後に会員皆様のご健勝をお祈りする。